

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		竣工段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.1</b>	0.15	-	-			<b>3.1</b>
1.1 騒音	45<騒音レベル≤50	4.0	0.40	-	-			
1.2 遮音		<b>3.3</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	0.62	-	-			
2 界壁遮音性能	Dr=40	4.0	0.38	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20	-	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.9</b>	0.35	-	-			<b>2.9</b>
2.1 室温制御		<b>4.1</b>	0.50	-	-			
1 室温	設計室温を冬期22℃、夏期24℃にて設定	5.0	0.49	-	-			
2 外皮性能	窓部:SC=0.45、U=2.25、外壁部:U=0.84	4.0	0.18	-	-			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.34	-	-			
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
2.3 空調方式		<b>1.0</b>	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.7</b>	0.25	-	-			<b>2.7</b>
3.1 昼光利用		<b>2.8</b>	0.92	-	-			
1 昼光率		1.0	0.05	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.95	-	-			
3.2 グレア対策		<b>1.0</b>	0.03	-	-			
1 昼光制御		1.0	1.00	-	-			
3.3 照度		<b>2.0</b>	0.01	-	-			
3.4 照明制御		<b>1.0</b>	0.04	-	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.4</b>	0.25	-	-			<b>4.4</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	告示対象外の建材およびJIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	5.0	1.00	-	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>3.4</b>	0.30	-	-			
1 換気量		3.0	0.48	-	-			
2 自然換気性能		3.0	0.03	-	-			
3 取り入れ外気への配慮	空気取入口は敷地周囲の状況を勘案し汚染源のない方に、かつ各種排気口と6m以上離して設けている。	4.0	0.48	-	-			
4.3 運用管理		<b>4.5</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視	手動による計測を行う。空気質を適正に維持するため管理マニュアルを整備し運用する。	4.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	1・2階に喫煙室を設置。給排気は他の系統とは独立して設け(第3種換気)、間仕切壁はスラブ-スラブ間とし、隙間等をシールしている。	5.0	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.4</b>	0.40	-	-			<b>3.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>2.9</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		3.0	0.03	-	-			
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.03	-	-			
3 バリアフリー計画		3.0	0.94	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>2.9</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		1.0	0.48	-	-			
2 リフレッシュスペース		2.0	0.04	-	-			
3 内装計画	地区・建物コンセプトを「段丘都市」とし、店舗の内装は「素地+塗装」の計画とした。照明コンセプトを「育む光」とし共用部は色温度:3000Kとした。	5.0	0.48	-	-			
1.3 維持管理		<b>4.5</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	大・小便器は壁掛け式としホコリのたまりにくい計画としている。外壁塗装にフッ素を使用、鉄部は溶融亜鉛メッキ処理を行う。	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	1.7%以上のゴミ置場と、0.3%以上の倉庫のスペースを確保している。	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-			<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VP(B)、排水:耐火二層管FDPD(B)、消火:SGP(C)、Eは不使用。	4.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性		<b>3.4</b>	0.20	-	-			
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-			
3 電気設備		3.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備	通信手段の多様化、電話は2ルート化を図っている。浸水の恐れなし。	5.0	0.20	-	-			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			3.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.29	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.6</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		EPS、分電盤、ケーブルラックで仕上を痛めず更新・修繕出来る計画。	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		EPS、分電盤、ケーブルラックで仕上を痛めず更新・修繕出来る計画。	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		バックアップ予備スペース確保。将来、増築部からの電源供給も計画。	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		地区全体コンセプトとして「段丘都市」を掲げ景観をルール化し配慮。	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3階自由通路に面し空地状スペースを確保し憩いの場に供している。また3階デッキに吹抜を設け下階にも風や光が抜ける計画とした。	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		卓越風の事前把握を行い、夏期の卓越風向に対し建物の見付面積を47.7%としている。風向きに対し配置や形状につき机上予測している。	4.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI=0.60	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		各階に採光のための吹抜を設置。	4.0	0.10	-	-	4.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>2.5</b>	0.50	-	-	<b>2.5</b>
集合住宅以外の評価(3a.3b)			2.5	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.5</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		エネルギー目標値を事業者に提示。運用管理体制を作成している。	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.9</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		節水コマに加えて、節水型便器を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.0</b>	0.60	-	-	<b>4.0</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.14	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		基礎躯体に高炉セメントを使用。	5.0	0.29	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		長尺シート(床)・階段段鼻タイル(床)、タイル(壁)にリサイクル材を使用。	5.0	0.29	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.29	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.3</b>	0.20	-	-	<b>4.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法の対象物質を含有しない建材種別が4つ有る。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP(100年値)=1のノンフロン断熱材を使用。	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		地表面対策面積率52.01%。風に対してのシミュレーションを実施。	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		計量により種類・量を推計、多種分別スペースを確保し、容器の設置計画をしている。	5.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制		事前調査、低減対策、ランク評価を行い、B領域ランクである。	4.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照障害の抑制		商業地域だが隣接する準工業地域の5h/3hの基準を満たしている。	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		街全体で照明計画をコーディネートしている。広告物に対しては、点滅や動いたり、投光照明の着色は行わない計画としている。	4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	